

## ■地域展

## 稗貫地方の自然と文化

会期 平成19年3月10日(土)～5月6日(日) 会場 特別展示室

県内各地には特色ある自然や文化が伝えられています。それらは、地域の人々によって守られ、地域社会が受け継いできた貴重な自然・文化遺産です。

当館では、平成13年度に「下閉伊地方の指定文化財とその周辺」を開催しました。本展は、県内各地域の自然や文化財を紹介する企画の第二弾として、新「花巻市」となった稗貫地方の自然や文化を物語る資料約170件を展示するものです。その中から主なものを紹介していきます。

## 1 稗貫の大地

## 「早池峰山付近の岩石」

早池峰山は、およそ5億年前の海洋地殻がもとになり、1億年あまり前の造山運動で隆起して生まれました。そのため、早池峰山周辺では、非常に古い時代の蛇紋岩や、海洋底に堆積した粘板岩などを見ることができます。

## 「活断層のはぎとり」

岩手県消防防災課(当時)が平成7年度に花巻市北湯口で採取した花巻断層帯とよばれる活断層のはぎとりを展示します。このような活断層の動きによって地震が発生しますが、花巻断層帯は、およそ4000年前に地震を引き起こしたと推定されて



メダカ南日本集団 (北限個体群)

います。

## 「花巻市博物館の足跡化石」

平成12年に花巻市博物館建設敷地で発見されたアケボノゾウなどの足跡化石のはぎ取り標本を展示します。アケボノゾウは、およそ200万年から100万年前に東北地方から九州にかけて生息していた日本固有の小型のゾウです。県内では胆沢川流域でも足跡が見つっています。

## 2 稗貫の生きものたち

## 「稗貫地域の水辺の生きもの」

水田を中心とした人々の暮らしと共に生きてきた水辺の小動物を、標本や写真で紹介します。

水田が広がる稗貫地方は、マツカサガイやタガイといった用水路や田んぼで生息する貝の格好の生息地です。かつては、よく見られ、食用にされることもあった淡水性の二枚貝です。

また、小川や用水路の生きものでは、メダカもなじみの深いものです。メダカは北海道を除き、日本中に分布しますが、遺伝子的に日本海側の北日本集団と太平洋側の南日本集団に大きく分類されます。稗貫地方は、南日本集団の北限生息地としても知られています。

用水路がコンクリートになり、圃場整



ハヤチネウスユキソウ

備によって乾田化が進んだことで、水辺の生きものの生息環境は変わっています。身近な生きものたちもその数は少なくなっています。

## 「早池峰山の高山植物」

北上山地の最高峰である早池峰山は、ハヤチネウスユキソウやナンブトラノオなど、ここにしか分布しない高山植物の宝庫としても知られています。早池峰の可憐な高山植物を標本と写真パネルで紹介します。

## 3 稗貫の考古遺物

## 「安堵屋敷遺跡出土資料」

安堵屋敷遺跡は、新花巻駅の北およそ3kmの石鳥谷町五大堂に位置する縄文時代晩期中頃(約2500年前)の遺跡です。流麗な文様の描かれた土器や土偶、岩版などが数多く出土し、稗貫地方を代表する亀ヶ岡文化の遺跡として知られています。

## 「水鳥戯画線刻文土器片」

花巻空港の東に位置する庫裏遺跡の出土資料で、水鳥が餌のドジョウをついばむ様子が描かれた平安時代の土器です。具象的な絵柄を持つ土器としては全国的にも極めて珍しい資料です。

安堵屋敷遺跡出土注口土器  
(花巻市蔵・石鳥谷歴史民俗資料館保管)

#### 4 藩政時代の花巻の文化財

「桶側二枚胴具足」(県指定文化財)

稗貫地方の中心都市であり、盛岡藩の南の要地として栄えた花巻。この町を整備したと伝えられ、今なお開町の恩人と慕われるのが、江戸初期の花巻城代だった北松 斎(北信愛)です。

花巻市雄山寺には松斎が着用したと伝えられる甲冑が伝来しています。鉄板を鉄でとめた鉄錆地の胴と小札を連結する紺色の威糸が、実戦向きの堅牢さと重厚感をただよわせます。しかし、胴の胸元には「天照皇太神宮・八幡太菩薩・春日太明神」の文字が銀象嵌され、鉄の頭には、梅・桜・片喰など異なった文様が飾られ、繊細な美しさも感じさせてくれます。



桶側二枚胴具足(雄山寺蔵・県指定)

#### 「十王図」

花巻市広隆寺に伝わる、死者が冥界で七日おきに受ける審判の裁判官である十人の王を描いた十幅の絵から、閻魔王・変成王・五道転輪王の三幅を紹介합니다。広隆寺の寺伝によると、延宝7年(1679)に花巻の豪商清水甚兵衛が、京都泉涌寺から譲り受けたもので「泉涌寺」の文字が記されています。刺青を施した死者や龍に乗った聖徳太子が描かれるなど、他に例を見ない十王図です。

#### 八重樫豊沢筆「仙人図」

八重樫豊沢(1763-1842)は、花巻城下で寺子屋の師匠として子どもたちに教えながら、小野寺周徳に絵を学びました。彼の描く人物の表情は、日々接した子どもたちへの穏やかな視線を感じさせます。



八重樫豊沢筆「仙人図」左幅(個人蔵)

豊沢と、彼の絵の師である小野寺周徳、豊沢に学んだ橋本雪蕉の三人は、花巻の三画人として知られています。

#### 5 稗貫地方の特産

##### 「鍛冶丁焼」

江戸後期、古館伊織という人物が花巻城下鍛冶町で始めたと伝えられる焼きものに端を発します。茶碗や壺などの日用品が中心で、花巻の土を形にした素朴な味わいがあります。花巻の焼きものでは、台焼も知られています。

##### 「及川全三ホームспанコレクション」

ホームспанとは羊毛を手で紡ぎ、織りあげた毛織物で、東和町の地場産業として知られています。このホームспанに植物染料を用いて染色する技術を導入したのが東和出身の染織家・及川全三(1892-1985)でした。和紙の製作にも取り組んだ彼の作品を紹介します。

花巻市・大迫町・石鳥谷町・東和町の合併によって新たな花巻市となった稗貫地方。豊かな自然や文化のすべてをこの展覧会で紹介することはできませんが、先人が育み守ってきた自然・文化遺産の一端をたくさんの方にご覧頂ければ幸いです。

##### 展示解説会

3月25日(日)、4月29日(日)

14:00~15:00 特別展示室(要入館料)

##### 県博日曜講座

4月8日(日) 13:30~15:00 教室

「花巻の豪商 清水甚兵衛」

講師 時田里志(当館主任専門学芸調査員)

##### いわての博物館交流セミナー

5月3日(木・祝) 13:30~15:00 教室

「花巻の焼きもの」

講師 中島明子氏(花巻市博物館学芸員)